

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0173600420), 法人名 (社会医療法人 延山会), 事業所名 (グループホームCoCoすみかわ), 所在地 (北海道苫小牧市澄川町7丁目6番15号), 自己評価作成日 (平成29年10月13日), 評価結果市町村受理日 (平成29年12月28日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2017\_02\_2\_kan=true&JigyosvoCd=0173600420-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年11月30日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

6人のより家庭的な雰囲気の中で、介護理念である「その人らしくほのぼのと」を motto に安心して穏やかに楽しい生活を送って頂く事が出来るよう、入居者の状況の変化を把握し、試行錯誤しながらその時々にあった、入居者本位の対応を心掛けている。医師が施設長で看護師が常勤しており、併設病院との密な連携により健康管理において安心感を持って頂けている。入居者の身体機能の維持については、併設病院の理学療法士の、食事の嚥下の状況については、歯科医師による評価が行われ食形態について指導を受ける事が出来る。また形態や栄養の問題は、栄養士のアドバイスも受ける事が出来る。また併設の老人保健施設のサークル活動や行事への参加も可能で、入居者の活動に選択の幅がある。また事業所の力を生かして実習生の受け入れや認知症サポーター養成講座への講師の派遣を行っている。季節感のある行事を計画し、ご家族と協力して外出の機会作りにも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市の西部地区、閑静な住宅街にあり、母体法人の病院と老人保健施設に隣接するように立地している。建物は1ユニット6人定員にふさわしく、こじんまりとした平屋建てで、老人保健施設と同様に苫小牧地区では最初に認可設立された経緯があり、母体法人の介護に対する思いの強さが窺える。当事業所の優秀な点は、認知症への介護の取り組み姿勢に表れており、1ユニットで定員が6人というスタンスを最初に挙げたい。認知症の住居として、畑や花壇、テラス、駐車場等のスペースは最低限必要であるため、この敷地では1ユニットで、しかも定員は6人が最適と判断した勇気と、また階上等での事業所運営は、生活面と安全面で問題があるとして、2000年の開設以来、平屋家屋で1ユニット6人を介護の基本とし、営業的には苦闘しつつも、決して揺るがない介護への信念を最大限に評価したい。次に母体法人と同じくする病院と老健との協力関係も特筆されていい。医療、施設、認知症共同住居という3者の役割分担が的確に機能しており、治療もリハビリも生活も地元という、地域での安全と安心を担っている当事業所の今後に大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念と基本方針を掲示し、ケアに迷った時はそこに立ち返り、照らし合わせている。また介護理念は開設に当り、スタッフ全員で考えたもので、より具体的内容となっている。	理念は利用者や家族、介護員等がすぐ目につくよう掲示されており、また本年度の目標として災害時の心構えや接遇等を掲げ、基本理念の実現に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入。町内会の夏祭りでは子供神輿がホームの前まで来てくれる。今年はお祭り会場へご家族や入居者6名全員で出かけ楽しんだ。またコミセン祭りにも行っている。9月の地域合同の火災避難訓練には町内会防災部や近隣住民の方の参加も頂き、実施した。	ほぼ同一敷地内に地域に根差した母体病院と市内で第一番目となる老健があり、地域的な交流基盤はしっかりと継続されている。事業所も単独でも広報誌の回覧や、サポーター養成講座の講師として、役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトがおり、認知症サポーター養成講座に派遣した。苫小牧看護専門学校の実習受け入れを行っている。CoCoすみかわ便りを定期的に回覧し、地域の方に役立つと思われる認知症に関わる情報を掲載している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況等取り組みを報告するほか防災や事故、苦情等について検討している。委員から頂いた意見を職員会議の場で報告し、活かしている。	推進委員は行政や家族、地域の代表、協力病院や老健委員と幅広く構成されており、事故報告や避難路の確認、避難先以降の生活と、他に類を見ないほど深く検討され、サービスの向上に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や苫小牧グループホーム連絡会の研修会でも、指導や情報交換の場が設けられている。日常的に連携し、相談にのってもらえる関係が出来ている。	市の窓口とは各種申請や報告、法的疑似解釈等で相談に出かけており、信頼性の高い関係が築かれている。また苫小牧グループホーム連絡会主催の市が講演する管理者研修等に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の身体拘束廃止委員会に入っており、ホーム内においても毎年身体拘束に関わる勉強会を開催している。玄関のカギは日中は開錠しており、施錠は夜間のみとしている。	母体が病院法人であり、拘束や抑制の弊害について理解が浸透している。事務室にはマニュアルが用意され、拘束廃止委員会が定期的に開催されるなど、拘束や虐待、抑制等に無縁なケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回勉強会を開催している。他施設で発生した事例から、自分たちのケアが虐待につながっていないか検討する等の機会も作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度の利用者はいない。年に一度スタッフの研修に取り入れ、制度の理解を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書を用いて細かく説明している。改定等があった際も文書等を配布し、個別に又は家族会等で説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会において、意見を伺っている他、家族の意向ノートを作成し、要望等があった際にはそれをケアや運営に生かしている。	利用者意向ノートが用意され、生活に寄り添いながら気づいた意見や要望を聞き取り、共有できるように臨み、アンケートを含め積極的に利用者や家族からの声に耳を傾けている。	意見や要望の聴取に積極的であり、高く評価したい。今後は利用者の事業所での生活を掲載し発行しているお便りの個別化、定期化、頻度等を検討し、より一層充実した内容になるよう期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	次年度の年間活動計画を作成する際や月2回の職員会議等では、職員の意見や提案を聴く機会を設け、出された意見を生かしている。	毎日の申し送り、月に2回の職員会議、また面談を前提とする人事考課制度等により、職員は管理者等と面談し、意見を具申できる機会が設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回人事考課面接を行い、スタッフが目標を持って仕事が出来るように取り組んでいる。資格取得による昇給もある。法人内の安全衛生委員会に参加し、定期的に職場環境チェックが行われ、改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加出来なかった職員には、ホーム内研修において学んだことを伝達している。法人内の各委員会が実施する研修にも参加の機会がある。スタッフも研修を担当し、理解を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症グループホーム協会日胆支部が主催する事例発表会にスタッフを参加させたり、苫小牧グループホーム連絡会の管理者研修会やスタッフ研修に参加し、他施設のスタッフとの意見交流等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の所を訪問したり、ホームを見学して頂く機会を作り、不安や困っていることなどを伺い、安心の確保に努めている。可能な場合は予約中にホームに遊びに来て頂く等事前の関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、ホームの見学時やサービスを開始する段階でご家族が困っていることや要望等を伺い、それに対してどのように取り組む事が出来るかなど分かり易く説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談において詳しくお話を伺い、総合的に判断し、支援に繋げている。必要がある場合は他のサービスや相談者を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来ることを見極めて、自らが行動しようと思う様な働きかけを意識して行う様努めている。入居者の中には互いに思いやり、助け合う光景も見られ、安全に配慮しながら出来るよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時にご本人の状況を説明し、関わりやすいよう配慮している。食事や水分を摂る方法を説明することで、一緒に関わり、支えて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	天候に合わせて散歩や地域の行事、また健樹園の行事や面会にお連れすることで機会作りを行っている。地域の行事等に出掛けると、声をかけてくれる人が年々多くなっている。	利用者の大半は地元の出身者であり、お祭りや各イベント等で相互に声を掛け合うなど、なごむ機会も多くあり、また病院や老健、当事業所での行事が利用者と地域との再会や継続、復活の場となっている事も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や、出来ない方の食器の下膳をしたり互いに気遣う様子が見られる。関係性が上手く行かない入居者もいる為、工夫して支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も要望により相談に応じる旨やお気軽に立ち寄って頂くようお願いしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や関わりの中で、思いや希望等話しやすい雰囲気作りを心掛け、アセスメントに努めている。困難な方へは、表情で判断したり、本人の思いを推測し支援している。	利用者が6人の特性が活かされ、一人ひとりの特性が理解されており、本人本位として意向に沿った時間が共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご自宅を訪問したり、ご家族にお話を伺う他、入居前にセンター方式シートを活用して細かな情報の収集を行っている。入居前の病院や施設からの情報も得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録はその日の状況や体調等、気分の変化等1ページに集約できるシートを使用し、利用者のその日の様子を把握しやすくしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の面会時にもご家族にケアの方法と意向を伺っている。得たことは個別の意向ノートに記入し、生かしている。カンファレンス前に、各スタッフが変化や支援方法について評価している。その後話し合ってケアプランに生かしている。ご家族との意向把握にずれが生じ、対応が遅れることもあった。	個別の意向ノートや日頃の様子、家族の希望を勘案し介護計画を作成し、各職員が随時に評価・モニタリングを行っている。定期的見直しは6か月間としているが、必要性に合わせて適切に介護計画を見直し・検討を重ねている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はシートに記入し、特に変化が見られた時は赤や青で記入している。評価においては様々な意見を出し合い、それを計画に生かしている。しかしシートの記入は、まだ十分とは言えない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況の変化に伴い、併設病院の外来リハビリを利用したり、歯科に日々の口腔ケアや摂食嚥下について助言を頂いたり、栄養科には提供する食形態について相談したりしている。併設の老人保健施設の行事に参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の夏祭りやコミセン祭りの行事に参加することで楽しむ機会を作っている。行事等ではボランティアの協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診においては、ご家族の意向を確認している。特に希望のない方は、併設病院を受診している。	かかりつけ医は家族の希望のまま継続し、必要に応じて往診医や協力医にお願いするようにしている。母体病院は24時間オンコールでの対応が可能で、安心な医療体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは日々の関わりの中で気付いた変化等を看護師であるホーム長に報告することで受診等に繋げている。ホーム長が不在時は併設病院に相談し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は情報を提供し、面会の機会も作っている。入院先の医師の病状説明等の際には同席した上でご家族と相談しながら早期に退院できるように努めている。また入退院調整や入院中の変化に関しては医療ソーシャルワーカーと連携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用開始時に重度化した場合の対応や、看取りに関する指針を説明している。実際に重度化した場合には、状況に応じて当方のできることとできないことを説明し、ご家族の意向を確認し、主治医と連携して方針決定している。	重度化の指針は、契約時に書面で説明し同意を得ている。看取りを実施した例はないが、利用者や家族の意向があれば対応処置できる様に終末期支援に臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師は救急救命士の資格を持っており、ホーム内で勉強会を開催している。病院で行われる人形を使ったAEDの使用方法等の研修にも参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災避難訓練を実施している。9月には地域合同で避難訓練を実施した。年1回は地震・津波時の避難訓練を実施している。	消防署の指導の下、年に2回の避難訓練を実施し、地域合同訓練や自然災害に対しても整えており、不意の災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会や日々のケアの中で、不適切と思われる言動や対応が見られた場合には、個別に注意したり、スタッフ会議において話し合いを行っている。個人のプライバシーや尊厳は会議等において繰り返し確認している。	一人ひとりへの支援が適切な距離で行われており、6人という少数介護での日常的な優秀性を感じられる。尊厳、尊敬、誇りについて、損ねないよう日常生活の中で大切に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、些細なことでも自己決定出来るような言葉掛けを意識して行っている。言葉が出ない方に対しては、顔きや表情や仕草等からご本人の思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の一人一人の思いを大切に、生活して頂けるように心掛けている。全ての方の希望に沿った支援が十分出来ているとは言えない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に衣類を選んで頂いたり、お化粧品道具を使いやすい場所にお持ちすることで、ご自分で化粧が出来るように支援する等している。訪問美容も入っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中で好きな食べ物を聞いたり、希望を伺いメニューに取り入れるなど工夫している。入居者の状況に合わせて食器洗いなどを一緒にやっている。	食材は地元の商店から購入し、各人の体調や好みに合わせて献立に反映させ、また嚥下や咀嚼による障害にも対応した内容で、一人ひとりの食事が楽しくなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量はアセスメントシートに記入し確認している。食事については状況に応じて形態を工夫したり、好みに応じてメニューを変えたり調理方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを行っているが、義歯に汚れが残っていることがある。職員会議においてやり方を説明しているが、スタッフにより対応力に差があり十分とは言えない。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの他シグナルを把握することで速やかにトイレにお連れし排泄に繋げている。	排泄はトイレで、を基本として時間や排泄サインにより誘導し、自然な排泄になるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後にヨーグルトを提供したり、献立を工夫している。また状況に合わせて下剤の調整をしたり、ホーム内を一緒に歩く等している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日以外にも体調や希望に合わせて入浴して頂いているが、希望を表出される方はほとんどいない。	入浴は週に2回を基本としており、それ以外でも随時対応している。今後、必要となれば隣接する病院や老健施設の特殊浴槽の活用も視野に入れ、現状の入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	在宅での生活習慣を把握している他、その時々のご本人の表情等を見て休むよう促している。天候等により日差しを遮ったり、湿度の調整をしたり支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等があった場合には、起こりやすい副作用や変化などについて、申し送りノートへ記載し、会議の場で説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や聞き取りから趣味や楽しみ等を把握し、さらに現在の状況の変化を会話等で再確認した上で支援内容を検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	お出かけの日として買物やパン屋さん、喫茶店に行き、好きな物を選んで頂いている。天候に合わせてホームの庭や近所の散歩等を行っている。	併設施設の車両も使用でき、季節ごとのドライブや外食行事に活用している。周囲は閑静な住宅街で公園も近くにあり、散歩や買い物等、気楽にお出かけを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを自己管理している方もおられるが、その他の方は行事等で買物される時には事前にご家族に持参して頂き、レジで自分で支払いをして頂くように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もおられ希望がある場合に支援している。昨年は年賀状を書いて頂き、受け取ったご家族に喜ばれた。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によっては日差しやホーム内の温度差、物の配置等気配りしている。壁や棚に製作作品や季節に合わせた飾りを工夫している。	建物内は居間を中心に居室が取り囲む様配置されているが、採光に優れ明るく開放的な雰囲気を感じられる。居間で過ごす全員が寛いでおり、6人という少数定員故にか、ゆったりとした穏やかさ、自宅の茶の間のような時間が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気分に合わせて一人で過ごしたり出来るように玄関前にもイスを置いたり、ベランダから庭や畑を眺めたり出来るように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人が実際に使っていた家具を入れたり、自分で作ったものや、家族の写真を飾るなどご本人が寛げる空間作りを、ご家族と一緒にやっている。	居室には馴染みの家財、親しみのある小物類が置かれ、心地の良い居場所としての工夫が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手摺を設置している。居室入口には名前をご本人が見やすい位置に貼ったり、トイレ等も分かり易く表示している。		